

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な時間、特別活動

ア 各教科

- (ア) 国・都・本校独自の学力調査等の結果を踏まえ、習熟度別指導ガイドラインに基づいた習熟度別少人数指導の充実、個に応じた指導方法の工夫、補習教室の効果的活用により、児童一人一人の基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- (イ) 各教科において、「ICT活用マニュアル」に基づき、デジタル教科書や検索エンジン等を効果的に活用し、教科横断的・総合的な学習を通してより良く課題を解決し、主体的に学習に取り組む態度を養う。
- (ウ) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、体験的な学習、問題解決的な学習、言語活動を重視して授業改善を行う。また、校内研究や研修を充実させ、全教員の授業力を高め、児童の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- (エ) 児童が望ましい学習習慣を身に付けるために、アンケートを実施して家庭学習の状況を把握する。また家庭学習を促すリーフレットを配布し、「くじラーニング」等を活用しながら家庭学習の実施率の向上と内容の充実を図る。

イ 道徳科

- (ア) 「心やさしい子」を育てるために、道徳教育推進教師が中心となって学校の教育活動全体で道徳教育の充実を図る。教育活動との関わりを明確にした別業の改善を図るとともに、道徳の授業を要として主体的に自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする前向きな心情や実践的な道徳力を育む。
- (イ) 家庭や地域社会との密接な連携を図るために、道徳授業地区公開講座を開き、組織的で一貫した道徳教育を推進する。

ウ 外国語活動

- (ア) 発達段階に応じた言語活動を通して、児童のコミュニケーションの能力の素地をつくり、外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための教員研修を充実させる。
- (イ) ALTやICT機器を活用しながら、学ぶ必然性のある授業への改善を図り、グローバルに活躍できる人材を育てる。

エ 総合的な学習の時間

- (ア) 各教科・領域との関連を明確にした計画をもとに地域人材の活用や体験的活動の多様化を図り、主体的に学ぶことの楽しさや、体験学習の楽しさを実感できる課題解決的な学習の実践に努める。各学年の発達段階に応じて情報・プログラミング単元を設定し、タブレット等情報機器ネットワークを適切に活用する資質・能力を育成する。また、児童が目標達成までのプロセスを考え、計画・行動し、達成できるように学習活動を実施し、児童のプログラミング的思考を育成する。

オ 特別活動

- (ア) 新しい生活様式に基づいて、学校行事、学級活動、児童会活動、クラブ活動の改善と充実を図り、集団の一員としての自覚を高めることを通し、心身の調和の取れた発達と個性、主体性の伸長を図る。
- (イ) 異年齢児童の集団活動を新しい生活様式を取り入れながら工夫して行い、関わり合いと学び合いの機会を広げながら自己の生き方についての考えを深め、自己表現能力を高める。

(2) 特色ある教育活動

- ア 年2回の学級満足度調査の結果を学級経営に活かすとともに、人権尊重の精神を基盤にした教育活動の徹底を図る。
- イ 年度末に実施する学力定着度テストにおける児童個々の理解度を把握し、指導方法の工夫（授業改善等）に役立てる。
- ウ 不登校傾向にある児童について、SC及びSSW、並びに各関係機関等へ早期の段階で相談・連携し、支援を行う。
- エ オリンピック・パラリンピック教育におけるレガシーを引き継ぎ、芝生での運動を積極的に取り入れて体力の向上を図るとともに、芝生の維持管理を通して環境についての意識を高める。
- オ 図書館支援員と連携し、学校図書館を効果的に活用する。また、市民図書館とも連携し、調べ学習の充実や読書活動の推進により、学力向上を図る。

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- (ア) 新しい生活様式「むさしのスタイル」を徹底し、安心・安全な教育環境の中で自他を尊重し、人とのつながりを大切にして、公共性や道徳性などの社会的生活習慣の獲得を目指す。
- (イ) 児童の安全確保について家庭・地域・関係機関と連携し、地域との合同防災訓練、セーフティ教室等を実施するとともに「防災ノート」を活用した自助・共助の力を身に付けるための実用性のある学習活動・防災教育を推進していく。
- (ウ) 法令上及び社会通念上のいじめの実態を確実に把握する。また、SOSの出し方に関する教育を全学年で計画的に実施し、「学校いじめ基本方針」に基づき、学校いじめ問題対策委員会を中心にSC・SSW、家庭や地域と連携していじめ問題への組織的な対応を行う。

イ 進路指導

- (ア) キャリア・パスポートを活用し、自己のよさや可能性に気付かせ、自己の生き方を考えさせるとともに、進級の準備や上級学校へ進学する心身の準備ができるような指導の工夫をする。
- (イ) 小中一貫教育研究の成果を活かすとともに、中学校との連携を密にして進路指導の充実を図る。
- (ウ) 就学前教育との円滑な接続を図るためのスタートカリキュラムを実施する。